

地域の底力を信じ、市民一人一人をローカルヒーローに!

ながののNPOと市民をつなぐ機関誌

特集 「里親」を正しく知ろう!
10月は里親月間

まほろ

- まんまるニュース 生命の安全教育・助成金講座
- Myストーリー 天空の里いもい農場 代表 五味 美穂子さん
- ねぼが行く! 突撃となりのNPO NPO法人シナノソイル
- 「まるキャン最前線!」レポート
- まんまるイベントスケジュール



「まるキャン最前線!」
地域の子育てサロンで活動する高校生たち



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

まんまるはSDGsを推進しています。

2022
秋号
No.34

特集

「里親」を正しく知ろう！

10月は里親月間

海外では、子宝に恵まれなかった夫婦や、恵まれない子どもを救いたいと考える夫婦・カップルが積極的に子どもを招き入れています。有名なハリウッドスターが養子縁組で子育てするといったニュースもよく耳にします。また、同性婚など多様性の理解が進むにつれ、養子縁組も増えているようです。

「養子大国」と言われるアメリカでは、養子縁組の際に実親と養親が情報を共有して、共に子どもの成長を見守る「オープンアドプション」という制度が設けられています。子どもが養親のもとで、どのように暮らしているかを知ることができるため、施設に預けるより養子に出すという選択をする人が多いようです。

では、日本はどうでしょうか？ 制度の違いもあると思いますが、なにより「養子」を見るイメージが、海外とはちがう気がします。実際には、どのような制度や課題があるのかを集めてみました。

もっと知りたい「里親」のじょう！

里親支援機関の児童福祉施設「松代福祉寮」に勤める里親支援専門相談員の玉井秀樹さんに聞きました。

Q1

里親制度の目的は？

子どもの健やかな成長と自立を支援することが里親制度の目的です。子どもが

健やかに成長していくためには、家庭で家族と暮らす時間や経験がとても大切です。ところが今、さまざまな事情から生んでくれた親と見つしよに暮らすことができない子どもがいます。

このような子どもを自らの家庭の一員として迎え入れ、成長をサポートする人を「里親」といいます。子どもが里親のもとで育つことで、人との適切な関わり方を学んだり、地域社会の中で必要な社会性を養ったり、生活経験を通じて生きる力を獲得したりすることが期待されます。

Q2

里親を必要とする「さまざまな事情」は？

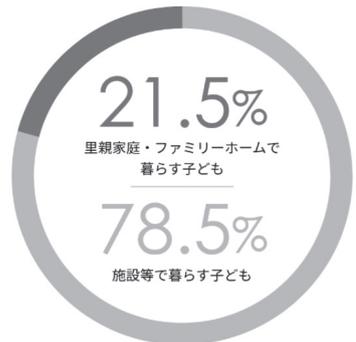
実親の疾病や死別、失踪などに加えて近年は児童虐待が理由になるケースが増えています。厚生労働省によると、子どもが親などから虐待を受けたとして全国の児童相談所が対応した件数は、2020年度に20万5029件で、20年前と比べると11・5倍以上になっています。児童相談所等の対応によっても状況が改善されない場合は、里親が児童福祉施設などでの暮

〈コラム1〉里親の全国的な状況

里親制度は、さまざまな事情で自分の家族と暮らせない子どもたちを、あたたかい愛情と正しい理解をもった家庭環境のもとで健やかに育てる制度です。

あたたかい家庭を必要としている子どもたちは、日本に約4万5000人、長野県内には約600人います。このうち県内の里親への委託は約2割で、全国的に見ると多い数字ではありません。他は児童福祉施設などで暮らしています。

全国で見ると、里親に委託されている児童数は、昭和60年に3322人でした



が年々増加し、令和元年には5832人になっています。(データと図は、里親制度について〜広げよう「里親」の輪〜などより)

詳しくはこちら▶



〈コラム2〉支援の状況

長野市にある長野県中央児童相談所では、乳児院や児童養護施設に配置されている里親支援専門相談員と連携し、養育技術等の助言、里親制度の普及・啓発等に取り組んでいます。同所管轄における令和2年度末の里親登録数は68世帯で、ここ数年は大きな変動はありません。



ながの子ども・子育てフェスティバルに向け周知ポスター制作中

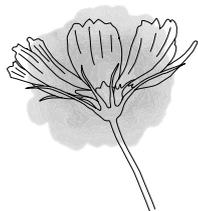


らしが必要となります。

Q3 里親にはどのような制度があるのでしょうか?

主には次の3つがあります。

- (1) 「養育里親」は、18歳未満の子どもを、家庭に戻るまでの間や自立するまでの間、養育します。また、虐待された児童や障害を有するなどの理由で専門的な援助を必要とする子どもを養育する「専門里親」もいます。
- (2) 「養子縁組里親」は、民法における特別養子縁組を結ぶことが前提です。養子縁組が成立するまでの間、里親としていっしょに生活します。
- (3) 「親族里親」は、実親が死亡や行方不明などにより子どもを養育できない場合など、一定の条件によって祖父母などの親族が養育する里親です。



Q4 里親制度が抱える課題はなんでしょうか?

制度を正しく知っている方が少ないことです。「あの家はどこかの子どもを預かっているらしい」という憶測で見るとではなく、制度を正しく知って「里親を理解している地域の味方」になっただけであればうれしいです。地域の味方が増えることで、里親が安心して子どもを養育できる社会にしたいと思っています。

Q5 里親になるために必要な資格や手順は?

特別な資格や子育ての経験は必要ありません。保護を必要とする子どもに寄り添い、あたたかい愛情と正しい理解をもって接することができれば大丈夫です。里親に関心をもっていただけでしたら、まずはご相談ください。長野県中央児童相談所家庭養育推進係(電話・026-1238-8030)で受け付けています。

里親となって子どもを家庭に迎え入れるまでには、

- ① 相談からスタートして、
- ② 調査や家庭訪問、③ 研修と実習、④ 審査を経て登録、
- ⑤ 子どもと出会って交流するといった手順で進んでいきます。

子どもに必要な生活費等は、国や県の規定に基づいて毎月里親に支給されますので安心して養育をしていただけます。

Q6 里親には年齢制限などがありますか?

25歳以上であれば年齢に関わらず、里親になることができます。健康な高齢の方でも可能です。進学や就職を控えた子どもには、人生経験豊富な方のアドバイザーが役立つこともあります。

また、独身でも認定基準の要件を満たしていれば里親になれます。共働きでも里親になれます。仕事をしている時間、保育園に預けることも可能です。



〈コラム3〉親子で楽しむ星空の世界×里親のこと

北信地区の5つの児童福祉施設などでつくる長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会では、里親制度について詳しく知りたい方、里親になることを検討している方に向けて、「里親力フェ」を開催しています。さらに今年度は、里親制度への周知と理解を深めることを目的とした「コラボ里親力フェ(全4回)」を企画。さまざま内容と組み合わせ、開催が予定されています。

1回目は参加者が親子で「YOGA(ヨガ)」を体験。2回目は「星空の世界」を題材として、善光寺大本願乳児院近くのこっこカフェで、プロジェクターに映し出される夜空の映像を見ながら星座の話や話を聞きました。企画スタッフの相談員からは、「難しく考えず、まずは子どもと一緒に楽しめる親子の学び場として、里親についてもっと身近で知る機会をつくってほしい」と話していました。10月は「お絵描き」、12月は「書道」を開催予定。「里親を知る」だけではなく楽しく参加してみませんか?



ヨガでリフレッシュしながら、里親制度に触れる

〈長野県里親支援専門相談員北信地区連絡会〉

- 松代福祉寮
長野市松代町東条字腰巻 108-2 Tel. 026-278-2556
- 三婦寮
長野市大字屋島 2373 Tel. 026-244-8355
- 善光寺大本願乳児院
長野市箱清水 3丁目 19番 2号 Tel. 026-232-2292
- けいあい里親支援総合相談センター
千曲市稲荷山 3842-1 Tel. 026-214-1311
- 飯山学園
飯山市大字飯山 3180 Tel. 0269-62-2339

Q7 里親支援専門相談員とは？

か？ 関心のある方はぜひ
松代福祉寮（電話・026
127812556）へお
問い合わせください。

里親は、 子どものための制度

子どもを迎え入れた後の里親をサポートするのが役割のひとつです。里親とじっくり子育てを考えていきます。困りごとの相談や息抜きなど、里親への気配りにも努めています。また、里親制度について理解を広めることも里親支援専門相談員の役割です。わかりやすく説明しますので、地域の研修会などで里親制度について学びません

「養子」と聞けば、家の跡継ぎや財産の相続者といったイメージを思い浮かべがちで、日本人は「養子」を特別視する風潮があるようです。家を絶やしてはいけないという武家時代からの教えのせいでしょうか。

「養子」と聞けば、家の跡継ぎや財産の相続者といったイメージを思い浮かべがちで、日本人は「養子」を特別視する風潮があるようです。家を絶やしてはいけないという武家時代からの教えのせいでしょうか。

子どものためより、家や財産のため「お金に余裕がある家がやること」というような誤解や、「血のつながっていない人を家に入れない」というこだわりもあるかもしれません。

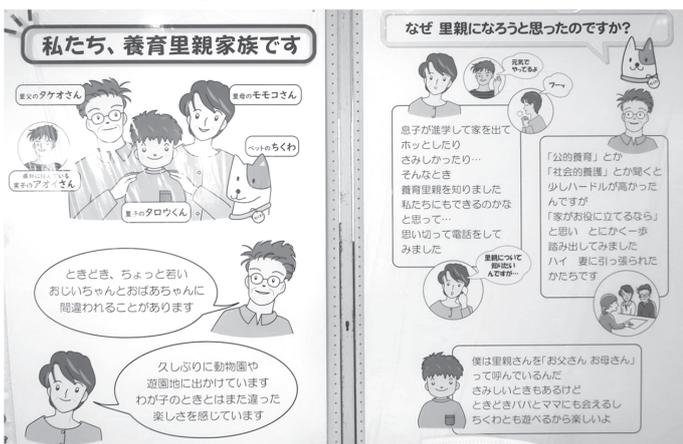
「里親」は、あなたか愛情をもって「協働」と「地域」で子どもを健やかに育てる「子どものための制度」です。地域社会のみならず子育てを支える仕組みのひとつです。

里親制度を知る紹介動画はこちら▼



LGBTQ+（セ

▼周知ポスターの一部



＜コラム4＞ビヨンド・トゥモロー

上羽友香さん（寄稿）

一般財団法人教育支援グローバル基金

BEYOND Tomorrow 事務局

私たちは、逆境は優れたいリーダーを創る、という理念のもと、虐待や親との死別などの困難を経験した高校生・大学生に対し、「返済不要の奨学金給付」や「人材育成プログラムの提供」などを通して、将来社会を担う若者たちを支援しています。

その一環で、8月に長野市で高校生向けの3泊4日の人材育成プログラムを開催しました。里親家庭や児童養護施設で暮らす全国の高校生10名が集まり、さまざまなゲストや団体との交流を通して「若者が挑戦しやすい環境づくり」をテーマに考えを深めました。

る姿に、「彼らを、弱い立場にしていたのは、私たち大人の勝手な偏見だった」という事実が気づかされました。社会的養護という要素ではなく、一人の人間として向き合った上で、私たち大人にできることを考えていかなければならない、この活動を通してそう強く感じています。

私が彼らとの交流を通して感じるのは、「かわいそう」と思うことの危険性です。社会的養護のもとで生活する子どもたちは、どうしても「支援の必要がある弱い存在」と捉えられやすい傾向にあります。しかし実際に彼らと交流し、自らの将来をしっかりと見つめ



8月に長野で開催した交流の様子



NPOカフェまんまる 「生命の安全教育が始まるまえに」

2023年度から全国の教育現場で「生命(いのち)の安全教育」が実施されるのを知っていますか? これは、性暴力に関わる安全確保のための教育で、これまで学校教育で取り上げてこなかったテーマです。

2023年度から全国の教育現場で「生命(いのち)の安全教育」が実施されるのを知っていますか? これは、性暴力に関わる安全確保のための教育で、これまで学校教育で取り上げてこなかったテーマです。

「性を学ぶことは自分を大切にすることであり、人権に直結する」と白澤さん。文科省の指導モデルでは、性暴力について学び始める時期を中学校からとしています。しかし、「幼児が性暴力被害を受けている現実を考慮し、幼児期からの学びが必要」という話に参加者は真剣に耳を傾けていました。

後半はグループごとに意見交換。参加者からは「性」を生きることであり、素敵なことだとわかった」「大事にされている状態を知ることができない」「学校や保護者、地域との連携が大事な声のほとんどが女性だったことを受け、「まずはこうした場合に男性の参加を」という意見が出ました。



多様な年齢層で「性と生命の安全」について意見を交換



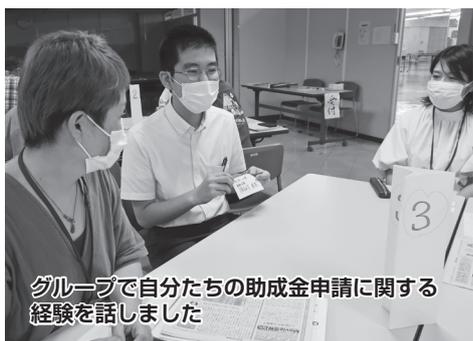
NPO ステップアップ講座 「助成金に挑戦！」

市民活動や地域活動をする団体にとって、助成金は重要な財源の一つです。そ

の助成金について基礎から学ぶ講座を9月11日に開催、リアル・オンライン併せて20人が受講しました。

講師は一般財団法人非営利組織評価センターの山田泰久さん。これまで助成側として数多くの申請書を見てきた山田さんから、助成金申請を考える上で意識すると良いことや重要な要素、全国的な傾向などを聞きました。

助成金は、自力で活動するための準備であり、信用や信頼、ネットワークなどお金以外にも得るものが多くあり、それをいかすことが大事という話に、助成金に対する新たな視点を得た参加者もいたようです。また、山田さんから「あれもこれも盛り込むのではなく、特に力を入れたい事業に焦点を当てて明確に書いているか」という指摘には、「うーん」と苦笑いする姿も。「申請書を書くことに必死になっていたが、改



グループで自分たちの助成金申請に関する経験を話しました

めて見直す機会になったという感想もありました。最後に山田さんから、「他の団体と助成金に関する情報を積極的に交換したり、申請書を見せ合ったりしてスキルを磨いて」とアドバイスがありました。終了後もそのまま残って情報交換をする参加者も多く、熱気に満ちた講座になりました。



#22

My
ストーリー

天空の里いもい農場

代表 五味 美穂子さん

天空の里いもい農場代表の五味さんは、篠ノ井有旅地区出身。結婚を機に芋井へ移住しました。

ある日、「インタープリター養成講座」が開催されると知り、興味をもちました。インタープリターとは、動植物に関する知識や自然のしくみを人々に伝える人。「虫は苦手

だけど、自分もやってみたい」と思い切つて参加しました。講座を通じて自然の恵みを知ると同時に、「動植物が存在する環境こそが人間の元であり、守つていかないと」という気持ちが芽生えたそうです。

その後芋井地区広瀬で、生活協同組合コープながのが食農体験企画「野あそび塾」を開催。スタッフとして参加する中で、「どうしてここにこの花が生えているの?」な

ど、参加者と一緒に考えることを大切にしてきました。しかし、同事業が終了。「このままではこの地は荒れてしまう。それだけは避けたい」と五味さんを含めた有志が集まり、2014年「天空の里いもい農場」を発足しました。多世代の交流や地域との協



働をめざした食農体験を実施、これまで3000人近くが参加しました。「スタッフ自身が楽しんで動いている。本当にありがたくて」と嬉しそうに話しました。五味さん自身が、参加する子どもたちと同じ目線になって自然と触れ合い楽しんでいるそうです。

そんな穏やかな五味さんですが、40歳過ぎたころ仕事先で事故に遭い左手を切断。手術で手はつながりましたが、後遺症もあり障がい者手帳をもつ身になりました。「障がいを負ったことで、何もなく生きてきた頃よりも世の中の知らない面を知ることができた」と前向きに話します。

インタビュー中、終始「ありがたい」と何度も口にする五味さん。どうしてそんなに感謝の気持ちが芽生えるのか尋ねると、「だって本当にありがたいんですから」と。その表情は何の疑問もなく純粋な子どものようでした。

団体情報 天空の里いもい農場
長野市広瀬2261
TEL: 090-9358-3286
<https://blog.canpan.info/imoi/>

プロフィール

県内外にいる6歳から高校生までの4人の孫たちは、長期休暇に芋井の大自然で遊ぶことを楽しみにしているそうです。



ねぽが行く!

突撃
となりの

NPO

NPO法人 シナノソイル

今年4月に発足した若々しい組織です。ソイルは英語で「土壌」を意味します。毎月第3土曜日と日曜日に、信州の農と食に触れながら地域にある良いモノと地域に暮らすヒトを結ぶ市街地点在型マルシェ「シーソーマーケット」を企画・運営しています。

未来を創る若者たちと地域の農業・産業の魅力や課題を探りながら、共に考え、体感し、地域に興味をもってもらい、地域愛を育みたい。地域の魅力を再発見することで、まちなかのにぎわい創出と、農業振興や観光振興など地域産業が活性化し、新しい地域経済の循環をめぐらせたい。若者たちがより活躍したくなる場所になるよう支援したい。さまざまな思いをもって活動しています。



NPO法人 シナノソイル
長野市大字鶴賀権堂町2300番地GOFUKU内
連絡先 sdgs@shinanosoil.com
関連サイト <http://seedandsoil.market/>

「まるキャン最前線！」レポート 長野で活躍する 高大生を紹介します！

ながの 地域 まるごと キャンパス 2022



「ブラナガノ」に参加!!! ながのTV

ながのTVが毎夏恒例で実施する、長野市内の地域を巡る番組「ブラナガノ」。8月20日、あいにくの曇り空の中、高校生2人と小田切地区に出向き、小田切八景を巡りました。高校生たちは一番重要なカメラ担当。案内人の住民自治協議会会長関口宜祐（よしゆき）さんと事務局長の柳澤

厚史さんから話を聞きながらひたすらカメラを回し続けます。最後には「小田切に初めて来たけど興味深かった。他の地区も深掘りしてみたらおもしろいと思う」と話しました。当日の様子はYoutubeで観られます!!

Youtube channel▶



ながの地域まるごとキャンパスのHPで、他のプログラムも確認できます。▶

「子育て地藏盆もりあげ隊！」

〜栽松院〜



8月23日、栽松院では子育て地藏盆の縁日が開催され、高校生8人が参加しました。学生は、輪投げや射的、お化け屋敷などをペットボトルや紙コップ、折り紙などを使って手作り。3日間で準備したとは思えないクオリティの高さです。栽松院の山口紗智子さんは「お寺の役員である世話人さんの高齢化が進む中で若い人が関わってくれるのは嬉しい」、学生は「子どもが楽しんでくれると自分も楽しい」と話していました。

「ナイトズーを成功させよう！」

〜茶臼山動物園〜



8月のお盆の時期にあわせて開催される茶臼山動物園のナイトズー。夜の動物園の探索は毎年大人気で多くの来園者が訪れます。動物好きはもちろん、子どもや家族連れを対象としているので、学生にとっても魅力あるプログラムです。参加した3人の学生からは、「コロナ禍において、受付での感染症対策や園内のご案内をするボランティアの大切さを知った」という声や「来園者が喜んでくれることで、イベント開催の楽しさを肌で感じることができた」との声がありました。

「日本発！国際映画祭を成功させよう！」

〜FICTS Nagano実行委員会〜



FICTS Nagano実行委員会は、長野の子どもたちが、スポーツ文化やオリンピック精神を学びながら国際的な視野を持つてほしいと活動をしています。今回、日本で初めての国際スポーツ映画祭を長野で開催することになり、その準備やワークショップの運営に、4人の学生が参加しました。8月27日、子どもたちとのワークショップではスタッフに交じり運営の手伝いをしました。「今回の活動を通じて、いろんな人と出会い刺激を受けた」と学生。同会委員長の土屋龍一郎さんは「学生たちが来て盛り上がった。地域まるごとキャンパスでプログラムを提案してよかった」と話し、来年のプログラム提案にも意欲的な様子でした。



市民協働サポートセンター

スケジュール 2022年10月▶12月



タイトル	日時	会場 / 費用	内容
NPO 初歩講座 「NPO ってなんだ?」	11月30日(水) 18:30 ~ 20:30	市民協働サポートセンター 参加費: 300円 定員: 5人	ボランティアって何? NPO ってなんだ?などの基礎知識から、NPO 法人の成り立ちや設立についてお話しします。また、市内の活動紹介もあります。どなたでも参加できます。
NPO カフェまんまる 「身近なアップサイクルを体験しよう!」 	10月29日(土) 13:30 ~ 16:30	アโดイシグロ (東鶴賀町 30) 参加費: 1500円(材料費込み) 定員: 15組 対象: アップサイクルに興味ある団体や個人、家族など	本来であれば単に捨てられてしまうような廃棄物に、デザイン性や機能性など付加価値をつけてあたらしい商品を作り出すアップサイクル。自らの体験や活動を通して、身近にある廃材でもちょっとした工夫で価値を生み出し新たな用途を考えることができます。参加者同士で実際にスツール制作ワークショップ、交流を通じた活動紹介、次のアクションにつながるきっかけづくりの場とします。
地域づくり講座 「改めて協働を考える～ぼくらの協働を探す旅に出かけよう!!～」	11月23日(水・祝) 13:30 ~ 16:30	オンライン・リアル (調整中。決まり次第広報) 参加費: 1000円 定員: リアル 50人 オンライン 30人 対象: NPO・地域活動団体・企業・行政など	市民活動団体だけでなく、地縁組織も行政も多様なニーズに応えるためさまざまな人たちとの協働が必要となっています。一方大学や企業、組合など社会の課題解決のため力を貸したいと思い、そのきっかけを模索しています。それぞれの団体がコーディネーションのスキルを磨きながら出会いを演出していくことが必要です。当日は、「協働のグッドプラクティス」の紹介やワークショップを通して、固定観念を脱して柔軟に「協働」について考えます。 共催: 地域づくりネットワーク長野県協議会長野支部・ながの協働ねっと 講師: 長浜洋二さん(合同会社モジョコンサルティング)
まんまるボランティアサロン ①ボランティアさん集まれ! ②機関誌発送サロン	①毎月第4火曜日 11:00 ~ 14:00 ②12月27日(火) 11:00 ~ 14:00	市民協働サポートセンター 参加費: 無料 対象: 誰でも	まんまる開催のボランティアサロンです。「誰か」や「自分」のために、楽しく無理なくボランティアをしませんか? 10代から80代までいろんな人が活躍しています! ①封筒や紙バックをカレンダーや新聞紙で作るなど、日によって作業は変わります。※12月は②発送サロンと同時開催。 ②3ヶ月に1回発行するセンターの機関誌を発送する作業です。封筒へのラベル貼り、機関誌やチラシの封入をします。

新型コロナウイルスの影響で、開催方法などが変更になる可能性があります。ホームページやフェイスブックでも随時情報発信しています。あわせてご確認ください。



子どもたちは未来の設計者

鈴木利典

東日本大震災直後岩手県大槌町の
大槌中学校長として赴任した著者
が、復興に向かう子どもたちの姿
から改めて「教育」について語っ
た1冊。



会議の進行役としての技術という
イメージを超え、連携・協働を支
える・生み出すなど、多様な場面
でのファシリテーションを解説。

徳田太郎・鈴木まり子
ソーシャル・
ファシリテーション



はココに!

ごんどう勝手堂

社会福祉法人森と木が運営するごんどう勝手堂は、ふらっと気軽に立ち寄れるみんなの居場所。近所の人や障がいのある人、学生から年配まで多くの人利用しています。スタッフはいるけれど、ひとりで過ごしたいときはひとりで過ごし、誰かと話したいときはそこにいる誰かと話して過ごす、誰にも何かを押しつけられない場所です。勝手堂担当の奥村和枝さんは「生きづらさを抱える方が気軽に立ち寄れる場所になったら」と話します。

〒380-0821 長野市上千歳町1336 TEL:026-266-0355 営業時間:11:00~18:00
(定休日:毎週土曜日曜・祝日・お盆・年末年始)



気軽にお越しくださいと
スタッフ 塚田さん

発行 / 市民協働サポートセンター まんまる (長野市)

TEL:026-223-0051 FAX:026-223-0052

〒380-0835 長野市新田町 1485-1 もんぜんぷら座 3F

e-mail: npo@nagano-shimin.net

ホームページ: <https://nagano-shimin.net/>



編集後記

「里親」の話聞きながら、ふと思い浮かんだのは、近くて暗い未来。子どもが自立し家を出て行ったら、会話すらない暗い夫婦の姿しか残らない。「子どものために」は、人を動かし、自分も動く理由になっていると、再認識しました(吉)

